雪害対策など 国の支援要望

18.1.27 福井新聞▲

鯖江署落成 60人祝う

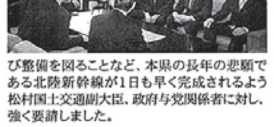
西川知事らテープカット

鯖江署の落成式でテープカットする関係者ら＝8日、鯖江市下河端町

18.2.9 福井新聞▲

議会の活動

北陸新幹線整備促進にかかる福井県議会中央要望活動



平成17年11月14日に、北陸新幹線整備促進にかかる中央要請を行い、本県議会から松崎議長、山岸副議長、山本文雄福井県議会北陸新幹線整備促進議員連盟会長、野田議員連盟副会長、石橋議員連盟副会長、笹岡総務教育常任委員会委員長、石川総合交通対策特別委員会委員長が出席しました。

この中で、昨年12月の政府・与党申合せにおける「必要に応じ随時見直しを行う」との見直し条項に基づき、整備スキームの早期見直しにより、金沢開業と同時期での福井開業を図るとともに、敦賀までの早期の認可および整備を図ることなど、本県の長年の悲願である北陸新幹線が1日も早く完成されるよう松村国土交通副大臣、政府与党関係者に対し、強く要請しました。

全国都道府県議会議長会定例総会

平成17年10月25日に愛知県で行われた「第126回全国都道府県議会議長会定例総会」に本県議会から松崎議長と山岸副議長が出席しました。

この会議の中で、松崎議長は、都道府県議会を代表して、次のような小泉内閣総理大臣からのメッセージを読み上げました。

- 政府は、「地方にできることは地方に」との原則に基づき、地方公共団体が自らの判断と責任で個性豊かな地域づくりを行えるよう、地方分権の一層の推進を図る。
- 三位一体の改革については、今後とも、地方と協議を重ねながら、確実に実現する。
- 政府は、元気のある地方、特色ある地域づくりを進めるため、地域の自主的な取組を支援する。

また、議事の中で、全国都道府県議長会として、地方財政の自立につながる「三位一体の改革」の実現を求める決議を採択しました。

12月定例県議会 11月28日開会

県議会だより 福井県議会

17.11.27 県民福井▲

県会新議長に松崎氏

「公正で開かれた議会を」

17.9.15 福井新聞▲

除雪費補助 緊急2次配分検討

松村副大臣 県議長らの要望受け

18.1.27 県民福井▲

眼鏡技術に関心

皇太子さま 鯖江の会社視察 100周年モデル試され

視察された眼鏡工場で産地100周年記念モデルの眼鏡をお掛けになる皇太子さま＝22日、鯖江市の福井めがね工業

17.10.23 福井新聞▲

潮流

福井県議会議長 松崎 晃治氏

県政のかじ取り役

経済構造改革や地方分権社会実現のための三位一体の改革など、地方行政は今、大きな転換期を迎えている。社会経済情勢が大きく変動する中で、福井県議会は県政のかじ取り役として極めて重要な役割を担う。今回は開会中の2月定例県議会で、議長席に座る松崎晃治氏に県政の諸課題について伺う。

新幹線、スキームの早期見直しを

◆同時開業　北陸新幹線福井駅部の着工に続き、昨年12月、鉄道建設・運輸施設整備支援機構から南越―敦賀間の工事実施計画認可申請が国に提出されたことは、計画実現に大きく近づいた。しかしながら「福井駅部が着工したとはいうものの、これはまだ点でしかない」。金沢と同時期での福井開業は悲願であり「これを線にすべく、国にスキームの早期見直しを求め、敦賀以西のルート問題ついても全力で取り組む」と意気込む。

◆高度医療　交通問題とともに、嶺北地域との格差が指摘される医療の充実では、嶺南地域出身者として以前から高度医療の確立と交通体系の整備をセットで訴えてきた。「公立小浜病院の高度医療施設整備計画には当初から力を入れてきており、ようやく実を結ぶかたちとなった」。工事が完成（来年8月末）すると、今後は県内トップレベルの医療サービスが提供できるようになる。そんな折、エネルギー研究開発拠点化計画の中で持ち上がった陽子線がん治療施設は、設置場所について嶺南地域へという声があり議論の結果、県立病院への併設が決まった。「嶺南地域出身者としては複雑な思いであるが、医療スタッフとか患者数などを総合的に判断すると、やむをえなかった。この施設を利用するにあたって、嶺南地域の住民にハンディを与えることがないよう県には配慮してもらいたい」と地元への想いを崩さない。

「エネ研拠点化で産業基盤強化」

◆起爆剤　原子力と産業の共生を目指すエネルギー研究開発拠点化計画は、嶺南地域活性化への起爆剤となるもの。嶺南地域は15基の"原発工場"が立地するだけで、これまで原子力エネルギーの利活用や産業の育成に関する議論は余りされなかった。産業の振興を考えると「嶺南地域は産業基盤が弱い。ここに原子力エネルギーの研究者らを集め、研究開発のメッカにしたい」。このことは「企業の誘致、雇用の拡大にもつながる」と、拠点化計画の推進に大きな期待を込める。

まつざき・こうじ　1958年生まれ。福井県小浜市出身。鳴門教育大学大学院学校教育研究科修了。県内の小・中学校教諭などを経て、95年に福井県議会議員初当選、2005年9月14日から第87代福井県議会議長。国語教育の研究者として「最近、日本語（言葉）の使い方が乱れている」と指摘する。趣味は読書。

18.3.9 建設工業新聞▲

若狭道 新会社整備 正式決定

知事「早期全線開通に前進」

18.2.11 福井新聞▶

重要課題に全力

県選出国会議員ら今年の抱負

観光振興 世界を視野に

糸川 正晃衆院議員

衆院議員として初の新年を迎え、身の引き締まる思い。今年も国民の大きな関心を集める治安の向上、教育改革などに力を注ぎたい。また、福井活性化策の一つとして、アジアや世界を視野に入れた観光振興に戦略的に取り組みたいと考えている。その観点からも北陸新幹線などのインフラ整備に加え、人材育成、中小企業支援などソフト面の充実を図りたい。

無駄をなくす改革徹底

笹木 竜三衆院議員

特別会計や天下りの改革が中途半端に終わらないよう、予算委員として税金の無駄遣いをなくす改革を徹底して進める。新幹線、中部縦貫自動車道など高速交通、教育・介護、安心な食、安全な国土など生活先進地としての福井の基盤づくりを行う。政治とカネの改革なくして真の構造改革なし。民主党副幹事長として迂回献金廃止により古い政治を終わらせる。

社会資本の整備に尽力

松村 龍二参院議員

第三次小泉改造内閣ではからずも、国土交通副大臣に任命されました。小泉内閣の改革路線は国民の強力な支持を得ており、この実現のために努力していきたい。一方、本県は北陸新幹線の完成や、舞鶴若狭自動車道の貫通、敦賀港や足羽川改修など社会資本の整備で大きな課題を持っている。県民の皆さんと協力して、これらの実現に尽力したい。

福井の将来像 早期構築

山崎 正昭参院議員

新幹線福井駅部や中部縦貫自動車道、舞鶴若狭自動車道の整備など高速交通体系の整備が着実に進展する中で、早期完成に尽力するとともに、これらが生み出す経済効果を最大限に引き出すべく、地域再生の取り組みに全力をあげる。特に産学官と政治が一体となって新たな福井の将来像を早期に構築し、魅力ある地域づくりを実現することが必要である。

高速交通網の整備促進

松崎 晃治県会議長

北陸新幹線、舞鶴若狭自動車道、中部縦貫自動車道など高速交通網の整備促進に全力で取り組む。原子力は安全確保を最優先に、拠点化構想の着実な推進と地域振興を図る。少子化対策や環境対策に全力を挙げるとともに子どもの安全確保など治安強化に努める。改革が進展する中、県議会の役割をよく認識し、個性あふれる福井県の創造に努力する。

福井型家族生活を発信

山谷 えり子参院議員

内閣府大臣政務官として、地域再生、構造改革、男女共同参画、少子高齢社会問題などを担当している。共働き率全国一であたたかい家族生活の福井モデルを全国に発信し、活力ある社会づくりに励む。拉致議連副会長として被害者救出に力を尽くし、主体的外交、教育正常化、特に過激な性教育や性差否定のジェンダーフリー教育をストップさせ、文化を育てたい。

18.1.5 福井新聞▲

新聞紙面で見るまつざき晃治の主な活動

本県県議が支援の会

拉致家族 全議員参加 特定失踪でも協力

15.12.6 福井新聞▲

県会議長に山本芳氏

自民候補 選出難航 「副」は松崎氏

15.5.14 県民福井▶

新パワー県会に躍進

バッジ胸に重く

新県議10人へ交付

7.5.2 福井新聞▲

37歳「若さ」で咲く

松崎氏 亡父の遺志継承

7.4.10 福井新聞▲

地村さん一家帰郷

小浜市民「ようこそ」

福井新聞 号外

「ゆっくり過ごして」

「ゼロからの出発 皆さまのご支援を」

地元に広がるねぎらいの声

16.5.24 福井新聞▲

「石川と連携強化」

県代表質問 新幹線延伸で知事

16.6.18 福井新聞▲

少子化対策

17.7.2 福井新聞▼

3年後 計画見直しも

北陸新幹線 県会予特委 知事見通し示す

17.7.2 福井新聞▲

16.12.3 福井新聞▼

「がん治療」今月、委員会設立

県議会予特委 教員「分限処分」導入検討

福井駅西口再開発 県、月内に支援策

県会代表質問